

平成30年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input checked="" type="checkbox"/> 社会人特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 西洋文学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>西洋文学科目の問題は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、ロシア文学、フランス文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論等に関する知識レベル及び欧文（英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。</p>

平成30年度  
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期）  
（専門試験） 西洋文学 全11枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 11枚、解答用紙 2枚を配付する。

解答における注意

（専門試験）西洋文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、その設問Iと設問IIに答えてください。

解答用紙は2枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の1行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

出題範囲・設問・ページ

英米・英語圏文学	設問I・設問II	2～3
ドイツ文学	設問I・設問II	4～5
フランス文学	設問I・設問II	6～7
ロシア文学	設問I・設問II	8～9
西洋古典学	設問I・設問II	10～11

[英米・英語圏文学] 設問 I

Choose two literary terms out of “denouement,” “meter,” “onomatopoeia,” and “tension” and then discuss each term separately. Where does it come from? How does it work? Has its function changed? Demonstrate your understanding of each term, first by its original definition and then by its current use in English literature. Make sure you explain its characteristics by referring to at least two literary texts in order to effectively prove your idea(s).

On the first literary term of your choice, please write the essay in Japanese, though you may refer to the texts' titles and term(s) in English. The essay on the second literary term you choose has to be written in English. You may write as much as you wish within the given time.

[英米・英語圏文学] 設問 II

次の英文を和訳せよ。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の  
出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：Ruth Franklin, *Shirley Jackson: A Rather Haunted Life*. W. W. Norton, 2016. pp. 221-23

【ドイツ文学】 設問 I

次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典

Johannes Klotz/Gerd Wiegel: Geistige Brandstiftung? Die Walser-Bubis-Debatte, hrsg. v. Johannes Klotz/Gerd Wiegel, Köln 1999, S. 7.

[ドイツ文学] 設問Ⅱ

次の2問に答えなさい。

問1 次の①～③の中から1つを選んで簡潔に説明しなさい。

- ① 言語ゲーム (Sprachspiel)
- ② ナチズム (Nationalsozialismus)
- ③ ヴォルフガング・ボルヒェルト (Wolfgang Iser)

問2 次の文章中で述べられている Erfahrung と Geschichten との関係について説明しなさい。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典

Max Frisch: Stichworte, Frankfurt am Main 1985, S. 126f.

設問Ⅰ [フランス文学]

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：André Malraux, *Oraisons funèbres*, Gallimard, 1971, p.98-99.

設問Ⅱ [フランス文学]

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Albert Camus, *L'Été*, in *Œuvres complètes*, tome III, Gallimard, 2008, p.567-568.



[ロシア文学] 設問Ⅰ

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1. А. Д. Кантемир (1708-1744)
2. А. Н. Радищев (1749-1802)
3. И. С. Тургенев (1818-1883)
4. М. Горький (1868-1936)
5. С. А. Есенин (1895-1925)

[ロシア文学] 設問 II

次の文を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典： *Бахтин М. М.* Предисловие («Воскресение» Л. Толстого) // Литературно-критические статьи. М., Худ. лит. 1986. С.100.

## [西洋古典学] 設問 I

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Ἀναξαγόραν καὶ Δημόκριτον Ἕλληνας ἄδουσιν, ὅτι φιλοσοφίας ἡμέρω πληχθέντες μηλοβότους εἶσαν γενέσθαι τὰς οὐσίας· ἄγαμαι τοὺς ἄνδρας καὶ αὐτὸς γενομένους χρημάτων κρείττους. ἀλλὰ πόσω βελτίους οἱ μὴ θρέμμασιν ἐμβόσκεσθαι τὰς κτήσεις ἀνέντες, ἀλλὰ τὰς ἀνθρώπων ἐνδείας, συγγενῶν ἢ φίλων, ἐπανορθωσάμενοι καὶ ἐξ ἀπόρων εὐπόρους ἀποφήναντες; ἐκεῖνο μὲν γὰρ ἀπερίσκεπτον -- ἵνα μὴ μανιώδες ἐπ' ἀνδρῶν, οὗς ἡ Ἑλλὰς ἐθαύμασεν, εἶπω τὸ ἔργον --, τοῦτο δὲ νηφάλιον καὶ μετὰ φρονήσεως ἠκριβωμένον περιττῆς. οἱ πολέμοι τί πλέον δρώσιν ἢ κείρουσι καὶ δενδροτομοῦσι τὴν τῶν ἀντιπάλων χώραν, ἵνα σπάνει τῶν ἀναγκαίων πιεσθέντες ἐνδώσι; τοῦτο οἱ περὶ Δημόκριτον τοῖς ἀφ' αἵματος εἰργάσαντο χειροποίητον ἐνδειαν καὶ πένιαν αὐτοῖς κατασκευάσαντες, οὐκ ἐξ ἐπιβουλῆς ἴσως, ἀλλὰ τῷ μὴ προιδέσθαι καὶ περιθρῆσαι τὸ τοῖς ἄλλοις συμφέρον. πόσω δὴ κρείττους οὗτοι καὶ θαυμασιώτεροι, χρησάμενοι μὲν οὐκ ἐλάττωσι ταῖς πρὸς φιλοσοφίαν ὀρμαῖς, μεγαλόνοιαν δὲ ὀλιγωρίας προτιμήσαντες καὶ χαρισάμενοι τὰς οὐσίας, ἀλλὰ μὴ διαφθείραντες, ἵνα καὶ ἐτέρους καὶ ἑαυτοὺς ὠφελήσωσι, τοὺς μὲν ἐν ἀφθόνοις περιουσίαις, ἑαυτοὺς δὲ ἐν τῷ φιλοσοφεῖν;

Philo Judaeus, *De vita contemplativa*, 14-16

註：

- μηλόβοτος 羊が草を食む（という状態）
- ἀπερίσκεπτος 思慮のない
- νηφάλιος しらふの
- ἐνδέω 不足する
- προοράω （中動態で）～に配慮する
- περιθρέω 見回す
- οὗτοι この文章全体で扱われているいわゆる「セラペウタイ」を指す
- ὀλιγωρία 軽蔑（ここでは、財産に対する）

[西洋古典学] 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及びこの著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Dicam ergo ut coeperam, nihil ingenio eius docilius fuit. Tarda [scil. Paula] erat ad loquendum, velox ad audiendum: memor illius praecepti: «Audi Israhel, et tace.» Scripturas tenebat memoriter; et cum amaret historiam, et illud veritatis diceret fundamentum, magis sequebatur intellegentiam spiritalem, et hoc culmine aedificationem animae protegebat. Denique compulit me ut et vetus et novum Instrumentum cum filia, me disserente, perlegeret. Quod propter verecundiam negans, propter assiduitatem tamen et crebras postulationes eius praestiti, ut docerem quod didiceram, non a memetipso, id est a praesemptionis pessimo praeceptore, sed ab inlustribus Ecclesiae viris. Sicubi haesitabam, et nescire me ingenue confitebar, nequaquam mihi volebat acquiescere; sed iugi interrogatione cogebat, ut e multis validisque sententiis, quae mihi videretur probabilior, indicarem.

Hieronymus, *Epistula CVIII (= Epitaphium sanctae Paulae)*, 26

註：

- ・ historiam ここでは「字義どおりに解釈された物語」
- ・ et vetus et novum Instrumentum 「旧約聖書も新約聖書も」